

## 高津区おはなしアーカイブ

加藤 孝市 (かとう こういち) さん  
昭和16年生まれ 74歳  
川崎市高津区下作延2丁目在住



### ◆家は大山街道の「立場」

高津区下作延に3人兄弟の長男に生まれました。弟と妹がいます。父は職人、祖父は農業をしていました。生まれた頃は、今の住まいがあるところに住んでいましたが、昭和17年に大山街道のねもじり坂を登ったところへ引っ越し、梶が谷駅の近くで「おかりや」という屋号の立場(街道の休憩場所)を営んでいました。井戸が4つもあり、馬が休んでいたり、煙草を売っていたことを覚えています。今でも馬頭観音が残っています。庭にはにわとりが100羽もいました。こちらには昭和21年の春まで住んでいて、その後、今の住まいがあるところに戻りました。

### ◆焼夷弾で家が丸焼け-戦争のこと

昭和20年5月26日、家が焼夷弾で丸裸に焼けました。当時4歳。あたりが真っ赤になって、焼け跡には60センチくらいの焼夷弾が竹やぶにたくさん落ちていて…怖かったです。「ヒューヒュー」って音は今でも覚えています。毎晩防空壕に行って寝ていました。竹やぶが近くで、とにかく毎晩蚊がすごかったです。昼間は、毎日出征する兵隊さんを道に立って見送っていた、今思うと毎日何していたんだろうって思う、これが私の戦争の記憶です。

父は出征していて、終戦の時は和歌山で出兵の時を待っていたそうです。だからすぐに復員してきました。私が2歳くらいの時に出征していたので、父親としての記憶がなくて、帰ってきた時は父親?って感じで「なれるのに少し時間がかかったよ」と母は笑いながら言っていました。

### ◆小学校は2部制

昭和23年、高津小学校に入学しました。学校は今の場所にあって、1クラス57人で10クラス、午前、午後の2部制で、水曜日は半日でした。校舎は平屋で6棟あって、校内に二宮金次郎の銅像がありました。校庭は雨が降るとぬかるんで大変でした。

学校へは毎朝近所の子6、7人で一緒に登校していて、じゃんけんで負けるとみんなの荷物を持つ、途中で馬が来ると交代する、じゃんけんを4、5回繰り返して学校に着く、そんな毎日でした。

小学校1、2年の頃は脱脂粉乳(おいしくなかったな)3年生の時にコッペパンが出ました。確か3年生の頃までだったでしょうか?朝鮮学校も校内にあって、その後、現在の丸井のところに移転し、駅前の再開発により、今の場所に移転しました。

#### ◆季節の恵みをみんなで分ける

子どもの頃、夏は5時には起きて、カブト虫採りです。毎日50匹は簡単に採れ、身代り不動、梶ヶ谷の山の方まで採りにいきました。8月から9月は、山で栗や山ぶどう、10月はあけび採りと山芋掘りです。採るのはどうしても上手下手があるので、採ったものは一度集めてみんなで分けていました。この山は赤土で、「おすべり山」とも呼んでいて、よくお尻の下にごさをひいてシューッとすべって遊びました。

冬はベーゴマや木に登って鬼ごっこなど。小学生になると遊び仲間に入れてもらい、中学3年生がリーダーになって上の子が下の子の面倒をみていました。いつも男の子だけで遊んでいて、女の子は女の子同士でゴム跳びや冬は羽根つきをしていました。

このあたりは砂利道で、田んぼが広がっていました。田んぼでは鮒が釣れて、平瀬川も今の半分くらいの川幅で、近くに家もまだなかったから小学校の頃は夏にはよく泳ぎました。中学生になる頃にだんだん家が建ち始めて、川も汚れてきたので、多摩川で泳ぐようになりました。

そうそう、昭和24年まで、ここを木炭車が今の横浜市の元石川、荏田まで1時間に一本走っていましたね。

#### ◆子どもの頃の暮らし

祖父が農業をしていて、煙草も販売していたので、物々交換して、食べ物には恵まれていました。家にテレビや電話は町内では早い時期にきて、「電話が〇〇さんの家に入った」そんなことを近所で知っている時代でした。水道もきていて、ガスは昭和29年にひかれました。

今、区役所手前にあるセブンイレブンの脇から上がると小高い山の上に川崎市立高津女学校がありました。赤土で雨が降ると坂道は大変でした。昭和29年から男女共学になって、中学の同期生が1人か2人、行ったかな。

洗足学園(昭和21年に目黒区洗足から移転)はすでにあって、今の敷地には日本光学がありました。その後移転したので、洗足学園が土地の買収を続け、現在の大きな学園になっていきました。多摩芸術学園(現在は閉園)という専門学校もありました。

#### ◆工業高校に進学、そして岡山へ

高津小学校、高津中学校から川工(川崎工業高校)の機械科に進みました。

卒業後は、父の職人の仕事は時間がルーズなところが嫌だったので、サラリーマンになりました。岡山県の水島工業地帯に行

き、プラント設計に6年間携わりました。忙しかったですよ。まさに高度成長時代、月に150時間働く、今では完全にこんな勤務時間、アウトですよ。休みもほとんどない、お盆も帰れず、お正月だけはなんとか2年に1回くらい帰省できる、そんな生活でした。

#### ◆帰郷、結婚、家業をつぐ

6年勤めて川崎に戻り、昭和44年28歳の時に岡山で出会った4つ年下の女性が岡山からついてきて（笑）結婚し、建築板金の父の仕事を受け継ぎました。

当時、高津の役所、保健所、学校の石炭ストーブの煙突をすべて引き受けていて、小学校4年生の頃から手伝いはしていたので仕事はすんなり入れました。子どもの頃、蔵敷にあった向丘小学校の分校まで、自転車にリヤカーをつけストーブ一式を載せてキーキー音を立てながら砂利道を行きましたからね。当時、仕事はたくさんあって、今のような相見積なんてこともなく、仕事はどんどん進み毎日忙しかったです。

#### ◆神明神社のお祭りの思い出

神明神社のお神輿は、昭和6年に飾り職人だった父が作ったんです。秋祭りは毎年9月27日、28日。宵宮では、神輿は今のあすか製薬（旧帝国臓器）メディカルのところまで、翌日は、NTT大塚電話局の方まで行きました。毎年、田舎芝居が出て

楽しかったです。人気はやっぱり国定忠治ですかねえ。こども神輿もあって15人くらいでかついで必ず舞台にあげてもらえたんです。わずか5分くらいでしたけど、とてもうれしかったね。お祭りの日はおこづかいがもらえる、他に娯楽がなかったから、秋祭りは本当に楽しみでした。今でも高津区民祭では神輿をかつぎますよ。でももう年上になっちゃったから、5分か10分で若い人に交替します。田舎芝居も今は、カラオケと踊りになってしまいました。

#### ◆子どもの正月行事 精の神（どんど焼き）

正月の松が取れると、小・中学生20人くらいで下作延や溝口駅周辺の家・商店をリアカーで回り、正月飾り（門松等）や古い御札を集めて歩きました。その時にお金（おみき銭）ももらいました。集めた飾り等は、1月13日に学校から帰ってから空き地に大きい竹を中心に円形の小屋を建て、一晩小屋の中でお菓子等を食べながら過ごしました。翌朝の6時頃、「精の神に火をつけるぞ」と大声で宣伝しながら町内を歩きました。

精の神の残り火でお餅等を焼いて食べると、病気にかからないと言い伝えられました。また、集めたお金でお菓子やみかん等を買って、来た人に配りもしました。

宅地化に伴い、空き地もなくなり、昭和30年を最後に中止になり、高津地区に残

っていた精の神は姿を消しました。その後、昭和60年代に高津青年会議により数年間行われましたが、中止になりました。昔の行事が姿を消すことは寂しいですね。

#### ◆溝口駅周辺の変遷

今の「大山街道ふるさと館」の場所に高津町役場があり、その後、今の「てくのかわさき」がある場所に区役所ができました。

「パークシティ溝の口」のあたりは、繊維工場があって「朝鮮動乱特需」の時代、女工さんがたくさん働いていましたね。

そこに東芝が移転してきて、その後、昭和45年に群馬に移り、三井不動産が一体を宅地開発して、今の「パークシティ溝の口」になったんです。このあたりの初めての大規模マンション開発でした。

駅の裏手、南口側は田んぼが広がっていました。今の区役所の場所には、清掃事務所があり、大八車や、バキュームカーが行き交い、し尿槽があったことを覚えていません。建物を壊す時は、分銅を壁に当てて「ドーン、ドーン」とそれは大きな音でした。ここは下が岩でその上にヘドロがのっているので、何度も水が溜まり、床上浸水までなったこともあって、昭和44年、45年はお祭りが中止になりました。「溝口」という地名の通り、「溝」だから、水が溜まりやすいですね。

#### ◆活気あふれる溝口駅周辺

溝口には東京工機、ミツトヨ、東芝など工場がたくさんあって、にぎわっていました。大山街道には、多摩川を越えて東京の人も買い物に来ていました。11月21日頃には宗隆寺のお会式で、道の両側にたくさんの露店が出ました。今は、10月になって、昔のようににぎわいはありませんね。戦後は闇市もありました。

お店もたくさんあって「溝の口百貨店」があったんです。ここに確か昭和27年から28年だったでしょうか…水洗トイレがこのあたりで最初にできて、学校帰りにどんなものか、友達と見に行行って水を流して「なるほど」なんてね(笑)。

大貫病院はすでにあって、昭和32年に山口耳鼻科が開業。私は開業後、2～3番目の患者でした(笑)。その後、安藤整形外科、帝京大学付属病院、高津中央病院と病院ができました。

#### ◆溝口の娯楽

高津駅の近くと、溝口の今のムサシボウル(ボウリング場)のところに映画館がありました。東映、大映、日活、東宝、松竹と全部あって、50円で3本立てをよく友達と見に行きましたね。今、映画館はすべてなくなってしまいました。

今の「大山街道ふるさと館」の前に「たつみ電器」があって、店に置いてある大型テレビで放送されていたプロレスをよく見

に行きました。夜8時からの放送に、7時頃から行って、超満員でしたね。

#### ◆今の暮らし

かあちゃんと2人暮らしです。娘が3人、嫁いでみんな近くにいます。孫は女の子2人に、男の子2人です。

孫たちを見ていると今は時代が違うって思います。幼稚園からパソコンで遊ぶ時代です。私たちの頃は全部遊ぶものは自分たちで作る、小刀がうまく使えないと仲間になれなかった、竹を切って竹馬を作り、お正月のたこも自分たちで全部作りましたから。そうそう、梶が谷駅近くに池があって冬になると氷がはってスケートをしました。竹を切って下駄スケートを自分たちで作って滑りました。

みんなで知恵を出し合って、遊び道具も自分たちで全部作って遊ぶ、そういう時代でした。おこづかいも、お盆とお祭りとお正月くらいだから。戦後直後は、落ちていた焼夷弾を集めて持っていくと、森永ミルクキャラメルの大箱1つは買えた、そんな思い出もあります(笑)。

でも…のどかでいい時代でしたね。塾もないし、高津幼稚園は戦前からあったけど、幼稚園に行ったのはクラスで1人くらいじゃないかな。おやつは、秋はさつまいもや里芋、冬から春はお餅でした。農家だったので、食べ物に困ることはなかったけど、母は戦争中、焼夷弾が落ち、朝鮮動乱の時

は、有馬の方にB29が墜落し、命を落とした人を間近に見ていたので「命を守ることが本当に大変だった」と言っていました。母は97才まで生きて最後まで自分で用をたして「私はぼっくりベットで逝くわ」って言っていた通りの最期でした。

高津小学校に行った570人で今、高津に何人残っているかなあ…。亡くなった人もいるし、女性は結婚で離れることが多いですからね。

父が生きた84才まではがんばっていこうと今は思っています。

(平成27年6月16日取材)